

平成 29 年度 第 3 回「防災スペシャリスト養成」企画検討会

議事概要

1. 検討会の概要

日 時：平成 29 年 10 月 20 日（金）10:00～12:00

場 所：中央合同庁舎 8 号館 5 階 共用 A 会議室

出席者：林座長、井ノ口委員、岩田委員、牛山委員、宇田川委員、大原委員、鍵屋委員、
黒田委員、重川委員、田村委員、中林委員、丸谷委員、渡邊委員
海堀政策統括官、伊丹審議官、安邊参事官、重高企画官、小林参事官補佐

2. 議事概要

議題ごとに各委員による意見交換を行った。主な意見等は次のとおり。

(1) 受講者アンケートの見直し

- 現行のテストでは平均点の目安(難易度)を設定していないが、難易度の基準や指針があればテスト作成がしやすくなるのではないか。
- テストの正答率は技術的に操作できるものと考え、インストラクショナルデザインでは上位で定めるべきものとされているテストを充実していくべき。
- テストの設問内容が研修指導要領の学習目標に該当しないものがあつた場合は、研修指導要領に足りない項目ではないかという視点で検討し、必要な項目は研修指導要領に追加していくべき。
- 講師や事務局がテストを作成することに加え、研修内の取組として受講者にテストを作成してもらったりするなどの機会を設け、テストバッテリーを充実させていくことが大事。
- 一単元を複数の講師が担当するなど複雑化しているため、各講師に研修指導要領や標準テキストを理解したうえでテストを作成することは、現実的に困難ではないか。時間的には難しいかもしれないが、講師が作成したテスト問題が研修指導要領等に合致するかどうかを事務局側で確認し、合致しない場合は、講師に修正するよう依頼するようにはどうか。
- 研修指導要領に沿ってテストを作成し講義していただくが、講師にはある程度自由に話すことの裁量を持たせるのがよいのではないか。
- 講師には、負担軽減を意図して、テストの案を提供し、講師に選択していただくというような工夫も必要ではないか。
- 現行では解答方式は「○」「×」の二者択一だが、「○」「×」に「分からない」という選択

肢を追加してはどうか。そうすることで受講者が間違えやすい問題や解答に迷う問題、理解が難しい問題などを把握することができ、指導する側にとって有益な情報を得ることができる。

- 資料 1-3 の改善の対象と検討主体のうち、「開発」と「実施」を担う【講師・コーディネーター】は、防災スペシャリスト養成事業の実施体制の中で現状では最も組織化されていない部分である。そのため、アンケートを行った成果がどう活かされるかについて、コーディネーターの力量等によってコース間で差が生じやすいのではないかと。できるだけ差が生じないよう、【講師・コーディネーター】についても組織的な集まりとして組織化を図っていったらどうか。
- 研修の実施時期などについては、受講者だけでなく、全国を対象としたアンケートや調査を通じて把握する必要があるのではないかと。その中で、参加していない理由も明らかにすることで、eラーニングの活用など今後の取組みの方向性も明確になるのではないかと。
- 研修最終日アンケート Q3 の研修の実施時期の質問は、事前アンケートでいくことにより所属する部署の意見を把握することができるのではないかと。
- 同じ講師の講座のテストの点数を時系列的に比較し、その変化を見てはどうか。
- 研修の半年後などにふりかえりのためのアンケート調査を行うことで、研修が役立っているかなどを把握するとよい。レベル1のアンケートが整った次の段階で、実施する方向で行くこととする。
- 交流会に参加する受講者は3～4割程度に留まっているため、研修中の昼食を利用した交流を試行的に実施してみるなど、人的ネットワークを活性化する工夫が必要。
- 受講者の所属部門が容易に把握できるよう、防災部局か福祉部局か、土木部局か、その他かなど、おおまかに聞くべき。
- 将来的には、コーディネーター間で対象とする受講者を検討し、見直しを図っていけるとよい。
- 研修のリピーターを増やすために、「次も受けたいですか」とか「次はどのような項目を受けてみたいですか」などの質問をしておくことで、さらなる研修への誘導ができるのではないかと。
- アンケートで受講者及び所属組織の受講履歴を問うことで、個人及び組織のリピーターの状況を把握してはどうか。

(2) eラーニングの作成

- 解答に要した時間をログとして分析し、難易度や分かりにくいところを把握することができるのではないかと。

- ランダムに出題する場合、同じ系統の問題であっても難易度に差があるとすると、どうやって評価するかを考えていく必要がある。
- 全国の地方公共団体の職員や大学等が e ラーニングを利用できるようになると有効ではないか。
- 事前学習によって、研修前に講師が受講者の理解しづらいところを把握したり、質問をもらったりできると、研修に反映できるのでよい。
- e ラーニングのテストの結果から分析した結果は、コーディネーターを通じて講師に提供することも考えてはどうか。
- ログの分析結果を講師にフィードバックするタイミングが短すぎると研修に反映されにくいので、出来るだけ時間が取れるように配慮する必要がある。
- 将来的には e ラーニングは多くの人に開放し、ある一定の成果を上げた人たちが研修を受講できるような流れにするとよい。

(3) その他

- 女性の受講者が全体の1割未満と大変少なく、申込みに女性枠を設けるなどの工夫があってもよいのではないか。
- 募集開始後に即座に応募する準備をしている自治体があるらしく、それが結果として地域偏在につながる可能性を調べてほしい。
- 募集方法としては、抽選制もありえるのではないか。